

腹腔鏡内視鏡 合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery
第17回 2018年3月9日

■ 2-JP	当院における Nonexposed endoscopic wall-inversion surgery: NEWS 導入時の工夫 Tips for introducing NEWS at our hospital
--------	---

代表演者：堀井城一朗先生（福山医療センター消化器内科）

Speaker: Joichiro Horii, M.D., Fukuyama Medical Center, Department of Gastroenterology

共同演者：[福山医療センター消化器内科] 大塚真哉、磯田健太、濱野亮輔、常光洋輔、藤田勲生、
豊川達也

NEWS は胃を穿孔させることなく任意の部位を全層で局所切除することを可能とする理想的な手技であるが、技術的には LECS 関連手技の中でも難易度が高いと考えられる。

当院における NEWS 導入症例は 68 歳、男性で病変は胃噴門部直下後壁の径 30mm、胃粘膜下腫瘍（術前診断 GIST）であった。初回の NEWS であり十分な内科、外科間での検討を重ねた上で NEWS における内視鏡治療のエキスパートを招聘し、その指導下に手技を開始した。しかし腫瘍部位に起因する操作性困難から腹腔鏡、内視鏡ともに難渋した。内視鏡的な腫瘍の切除、回収を得たがその後の観察で漿筋縫合系の離解、穿孔を認め腹腔鏡での再縫合を必要とし施行時間は 9 時間に及んだ。この経験をふまえて 2 症例目は 67 歳、女性で病変は手術操作が比較的容易と考えられる胃体上部大弯の径 30mm の胃粘膜下腫瘍（術前診断 GIST）とし、内科・外科それぞれのエキスパートを招聘した。内科・外科双方の的確な指導の下で、難渋することなく 4 時間で NEWS を完遂し得た。NEWS 導入時には適切な腫瘍部位の選択に加えて、内科・外科それぞれのエキスパートによる指導下での施術が望ましいと考える。